

視察調査・研修会等報告書

令和7年3月11日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎 佳之 様



議員氏名(嶋田 積男)

研修・視察年月日	令和6年10月9日 ~ 令和6年10月11日
研修会場・視察先	岩手県盛岡市 トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館) 福島県福島市 福島市役所
研修名・視察目的	10月9日 第19回全国市議会議長会研究フォーラム 10月10日 第19回全国市議会議長会研究フォーラム 10月11日 特色ある幼児教育・保育プロジェクトについて
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	福島市 幼稚園・保育課 [REDACTED] 主幹
参加議員(同行者)	橋本守行議員 福田幸平議員 高橋 栄議員 細野大樹議員 廣瀬武蔵議員
調査概要	<p>盛岡市「第19回全国市議会議長会研究フォーラム」 10月9日 パネルディスカッション 「地方議会の課題と主権者教育」</p> <p>コーディネーター 静岡大学教授 井柳美紀 氏 パネリスト 法政大学教授 土山希美枝 氏 (一社)WONDER EDUCATION 代表理事 越智大貴 氏 読売新聞 渡辺嘉久 氏 盛岡市議会議長 遠藤政幸 氏</p> <p>地方議会は、投票率の低下や無投票当選の増加、議員の性別や年齢編成の偏りなどの課題を抱えている。議会とは何かを住民にしっかり理解していただき、女性や若者など多様な人材の議会への参画を進めることが必要である。</p> <p>そのためには、各議会が更なる改革に努め議会の活性化を図り、議会の重要な役割について将来の地方自治を担うこどもたちを含め、広く住民に理解が得られるよう取り組んでいかなければならない。</p> <p>10月10日 課題討議 「主権者教育の取組報告」</p>

視察調査・研修会等報告書

コーディネーター 東北大学大学院准教授 河村和徳 氏
事例報告者 伊那市議会前議長 白鳥敏明 氏
四日市市議会議員 諸岡 覚 氏
山鹿市議会議員 服部香代 氏

伊那市議会の取組

伊那市議会では、平成 30 年に市議会議員選挙が無投票になり、議員のなり手不足に危機感を抱き「魅力ある議会づくり検討会」を設置し、開かれた議会を目指し議会改革の一環として、若い世代、特に高校生に議会への関心を高めてもらうために、高校生の議会傍聴、高校生との意見交換会を実施している。

四日市議会の取組

議会改革をしても投票率は上がらなかった背景があり、高校生と大学生の若年層を対象とした出前型意見交換会「ワイ! ワイ!GIKAI」を平成 4 年から開催した。

平成 6 年には、高校生議会を開催し、テーマごとの委員会に分れ意見交換会を行い、本会議場で意見書の採択を行った。

また、市議会だより「こども号」の発行も行っている。

山鹿市議会の取組

山鹿市議会の課題として、開かれた議会になっていない事や住民の理解と関心を得られていない、なり手不足がある。そのような解決策として、小学生を対象に市議会について知ること、議員の仕事を理解すること、選挙の意義や投票の大切さをわかってもらう目的にシチズンシップ教室を開催。模擬選挙等も行っている。

福島市「特色ある幼児教育・保育プロジェクト」について

未来の創り手となるこどもたちの豊かな創造性や感性を育む教育・保育を推進する幼児教育・保育施設を支援する。また、こどもの個性を伸ばす特色ある幼児教育・保育を保護者が選ぶ機会を拡充し、個性豊かで特色あるこの事業を広く紹介して、福島市の魅力を発信する事が目的。市内にある私立認可保育施設等 80 園全施設を対象に「特色ある幼児教育・保育」を実施する際の費用の一部を補助する。

対象となる事業は、

- ①共生社会を目指す教育・保育
- ②自然環境を生かした教育・保育
- ③心身の健康増進及び身体機能向上を目指す教育・保育
- ④芸術・文化・伝統に関する教育・保育
- ⑤ICT の活用、地域との連携事業などその他特色ある教育・保育

視察調査・研修会等報告書

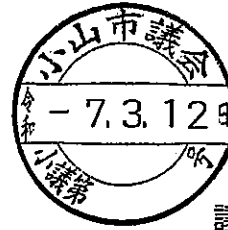
	<p>と認められる事業</p> <p>この事業は、一般社団法人日本子育て支援無協会主催の、第4回「日本子育て支援大賞 2023」自治体部門において大賞を受賞している。</p>
<p>市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等</p>	<p>パネルディスカッション</p> <p style="text-align: center;">「地方議会の課題と主権者教育」</p> <p>選挙権年齢が引き下がったことや、若者の投票率が低下し続けていることを踏まえ、これまで以上に主権者教育の重要性が高まっていると感じる。</p> <p>年々低下する投票率をあげるためには、子どもたちが社会で起きている問題や政治に対し興味や関心をもつことから始めなければならない、効果的な主権者教育の推進は、学校での教育のみならず、家庭や地域を巻き込み社会全体が連携して取り組むことが 重要 であると考え</p> <p>る。</p> <p>課題討議</p> <p style="text-align: center;">「主権者教育の取組報告」</p> <p>小山市においても高校生対象に議会報告会を行い、学生からの要望等を市長に提出するが、伊那市では高校生から請願が提出され採択されている。大変素晴らしいことであると感じた。</p> <p>また、四日市市では「よっかいち市議会だより#こども号」の発行を行っている。このような取組ができないかと考える。</p> <p>福島市</p> <p style="text-align: center;">「特色ある幼児教育・保育プロジェクト」について</p> <p>子どもを取り巻く環境について市民の関心は高まり、幼児教育・保育に対するニーズも多様化しており、官民が連携して教育・保育の質の向上を目指す事は非常に重要であると考え</p> <p>る。</p> <p>この事業に対して、市独自の支援として120万円を上限として事業費の2分の1を補助で、少ない予算であり「子育てするなら福島市」というように移住者の取り込みも行っていることが素晴らしいと感じた。</p>

視察調査・研修会等報告書

令和 7 年 3 月 12 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎 佳之 様



議員氏名(嶋 田 積 男)

研修・視察年月日	令和 7 年 1 月 14 日 ~ 令和 7 年 1 月 16 日
研修会場・視察先	愛知県 名古屋市 名古屋市役所 岐阜県 関ヶ原町 岐阜関ヶ原古戦場記念館 愛知県安城市 安城市アグリライフ支援センター
研修名・視察目的	1 月 14 日 ナゴヤ・スクール・イノベーションについて 1 月 15 日 岐阜関ヶ原古戦場記念館について 1 月 16 日 アグリライフ支援センターについて
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	名古屋市 新しい学校づくり推進課 ■■■ 主席指導主事 関ヶ原町 岐阜県企画課 ■■■ 課長 安城市 農務課 ■■■ 課長
参加議員(同行者)	小林英恵議員 橋本守行議員 渡辺一男議員 細野大樹議員 島 朋幸議員
調査概要	<p>名古屋市 「ナゴヤ・スクール・イノベーションについて」</p> <p>名古屋市教育委員会では、教育改革を市全体で推進するため、子ども一人の興味、関心や能力の進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を推進している。</p> <p>事業の概要としては、「授業改革の推進」「環境整備」「広報・啓発」の三つの観点から一体的に取り組み、特に「授業改善の推進」では、民間企業や教育研究機関等の持つ技術やノウハウを活用しながら授業改善の実践研究に取り組んでいる。</p> <p>また、新しい学びの実践に主体的に取り組む教員を公募し授業改善の実践を行っている。</p> <p>関ヶ原町 「岐阜関ヶ原古戦場記念館について」</p> <p>この施設は、県の施設となり関ヶ原の戦いを最新の技術と当時の資料で楽しく学び体験できる施設で、令和 2 年 10 月に会館し令和 6 年 5 月には、入管者数が 50 万人を超えています。</p> <p>建物は 5 階建て、入館してエントランスを抜けて関ヶ原の戦いに向かっていく雰囲気や幻想的に演出する「導入回廊」を過ぎると、全国を舞台とした東西陣営のスケールの大きな戦いを講談師・神田白山氏のナレーションと共に巨大な床面スクリーンで俯瞰できる「ランド・ビジョン」があ</p>

視察調査・研修会等報告書

	<p>ます。次の「シアター」では、4.5m×13mの局面スクリーンと臨場感あふれる多彩な演出(振動・風・光・音)により、合戦に紛れ込んだかのような映像体験ができ、展示室では、関ヶ原の戦いに関連する武具や古文書、屏風等が展示されており、関ヶ原の戦いに至る過程から戦いの後までを学ぶことができます。戦国体験コーナーでは、実物に近い刀剣や火縄銃に触れて大きさや重さを体験でき戦国時代を体験することができます。戦国時代を身近に感じる事ができ、最上階の展望室では、360度全面ガラス張りで、関ヶ原古戦場全体を見渡す事ができる施設。</p> <p>安城市「アグリライフ支援センターについて」 安城アグリライフ構想 安城市は、市のおよそ半分を農地であるため、農地をいかに有効活用する事と優良農地を適切に保全することが重要で、「農」のある暮らしを普及・促進することを通して、農業の持続的発展及び優良農地の保全を図る事を目的としている。</p> <p>具体的な施策として、①農業体験活動や農作物の栽培技術研修等を通して、「楽農人」を育成。②農作業や野菜作りの体験を通して、市民と農業者との交流や自然とのふれあいを深める。③「食」と「農」への理解の促進を図り、市民の健康づくり・生きがいづくりの場を創出する。</p> <p>安城アグリライフ構想推進拠点として「アグリライフ支援センター」が平成21年に開設された。</p>
<p style="text-align: center;">市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等</p>	<p>名古屋市「ナゴヤ・スクール・イノベーションについて」 民間企業や教育研究機関等の持つ技術やノウハウを活用しながら授業改善の実践研究に取り組んでいることに感銘を受けた。</p> <p>イェナプラン教育については、非常に素晴らしい取り組みであるが、先生方や保護者等の意識改革が重要であると感じた。</p> <p>関ヶ原町「岐阜関ヶ原古戦場記念館について」 小山市では新設の博物館構想があるが、関ヶ原古戦記念館のようなデジタルコンテンツを活用する事が重要である。</p> <p>安城市「アグリライフ支援センターについて」 安城市のアグリライフ支援センターでは、「野菜づくり入門コース」「野菜づくり実践コース」やスポット講座として、ミニトマトプランター植付体験や親子サツマイモ植付・収穫体験等の様々な研修を座学と実習をまじえて行っている。小山市にも市民農園があるが、JAとの連携でこのような研修が行えないかと考える。</p>